

Topics

「奥の細道矢立初めの地」子ども俳句相撲大会 参加者募集

子ども俳句相撲大会は、南千住が松尾芭蕉の「奥の細道矢立初めの地」であることにちなんだ俳句大会です。

1チーム2人1組で俳句を投稿し、予選を通過したチームにより、俳句の横綱の座を競い合います。

みなさんも横綱を目指して、ぜひ、俳句を作って応募してください。

対象/区内在住・在学の小学生
応募方法/1人1句で、チーム合計2句の俳句(お題は「春の季節」)を作り、2人の住所・氏名・電話番号・学校名・学年・チーム名・チーム名の由来・意気込み(氏名とチーム名はふりがなも)を明記し、持参または郵送で、11月30日(木)必着

※予選通過チームは、選考の上、通知します
※応募作品は返却しません
応募・問合せ/〒116-0003 荒川区南千住6-63-1 荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234

都電ハロウィン号が走りました

10月3日から31日まで「都電ハロウィン号」が運行されました。

都電の9002号車(青いレトロ車両)の車内に、ハロウィンの衣装をしたあら坊やあらみい、都電荒川線のキャラクター「とあらん」たちのステッカーを貼り、ハロウィンの世界を演出していました。

このほかにも、区は東京都交通局と協力し、定期的にさまざまな装飾をした都電を走らせています。ぜひ、チェックしてみてください。



▲「都電ハロウィン号」の車内

【お詫びと訂正】

第156号4面「あらかわ今昔ものがたり」について、記載に誤りがありました。正しくは、「神田昌平橋(現千代田区)」です。お詫びして訂正いたします。

問い合わせ 荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234

なりたい自分になる! 「飼育員」になるために!

将来の夢 インタビュー 第8回

動物が好きな皆さん、注目! あらかわ遊園のどうぶつ広場で飼育員として働く後藤郁恵さんに、飼育員になったきっかけや飼育員になるために何をしたかを聞きました。

いつごろから飼育員になりたいと思いましたか?

小学生のときです。家で動物が飼えなかったのが、よく動物園に行っていました。動物を見ているだけでも楽しいのだから、お世話ができればもっと楽しいだろうなと思っていました。

飼育員になるために何をしましたか?

必要な資格はありませんが、私は専門学校で勉強しました。専門学校では、自分の好きな動物だけでなく、たくさんの種類の生き物について、いろいろなことが学べました。哺乳類、鳥類、魚類、は虫類、両生類など、さまざまな生き物がいて、知らなかったことがたくさんあって、覚えるのが大変でした。

飼育員になって嬉しかったことはありますか?

どうぶつ広場に遊びに来てくれたみんなが動物に優しくしてくれたり、さわって喜んでくれたりすることです。そして、毎日動物のお世話をしている特権ですが、動物たちが飼育員を認識してくれていることが嬉しいです!

飼育員になりたい小・中学生にアドバイスをお願いします。

飼育員の仕事は、掃除の仕事が多いですが、楽しいですよ! 動物達は「こうしてほしい!」と言ってはくれないので、観察力が重要です。今から周りに気配りができるよう練習すると良いと思います。動物にとっても人間にとっても楽しく過ごすにはどうしたら良いか、一緒に考えましょう!

後藤郁恵さん



専門学校を卒業後、動物の飼育や管理をする会社に入社。飼育員としてあらかわ遊園に勤務している。

応援message

動物大好きな気持ちも大切に! しくじりっ!

「今、皆さんが心に秘めている動物好きの気持ちを大切にしてください」と後藤さん。

あらかわ 今昔ものがたり [あらかわの歴史と伝説]

【問合せ】荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234



その147 職人よもやま話⑫お仕事の お祭り~鍛冶屋と鞆祭~

モノづくりに携わる人は、いつも使っている道具や材料を大切に、感謝しながらお仕事をしています。今回はそんな職人さんならではのお祭りのお話だよ。

鞆祭って何? 区内には、鍛冶屋の技術を使って裁鉄をつくる職人、石塚昭一郎さんがいる。石塚さんによると、道具に感謝を込めて「鞆祭」を毎年欠かさず行ってきたそうだ。鍛冶屋は鉄などの金属を熱して打ち鍛え、いろんな器具をつくる職人だ。火を扱う場所を「火床」といい、火を熾すために風を送る道具「鞆」が置かれている。火を使う鍛冶屋にとって、鞆は大切な道具なんだって。かつて鞆を使っていた鋳物職人の菓子満さんも鞆祭を行ったそうだよ。

鞆祭のお供え 鞆祭の日は、旧暦の11月8日だけど、石塚さんの家では、一月遅れの12月8日。当日は仕事を休み、神棚や火を扱う所に、注連縄を張り、



▲鞆祭でのお供え物

お赤飯・鏡餅・蜜柑・鯛などをお供えしたんだって。お供え物の中で何が一番大事だと思う? 「高級魚の鯛じゃないか」って。意外や意外、蜜柑が一番大事なんだって。それに青みがかった蜜柑ではなく、綺麗に色づいている蜜柑じゃないといけないうね。蜜柑の鮮やかな色が火床の炎の色に似ているからかもしれないね。江戸時代の鞆祭 鞆祭は伝統的な行事だね。それでは江戸時代はどうだったのかな。享保20年(1735)の『続江戸砂子』に「子どもがたくさん鍛冶屋の軒下に集まり、“ほたけ・ほたけ(火をたけ火をたけ)”とはやすと、鍛冶屋が柿や蜜柑を投げ子どもにあたえた」と書かれている。蜜柑と同じく炎みたいな色の柿も撒かれていたようだね。どちらにしても当時は貴重な果物だった。「宝船職人尽」の絵のように、子どもたちは甘いおやつももらえる鞆祭を楽しみにしていたようだね。



▲「宝船職人尽」 荒川ふるさと文化館蔵

なにに、鞆や鞆祭をもっと知りたくなってきた。「石塚家の鞆祭」のDVD(「荒川区伝統芸能等記録ビデオ」第1巻)があるから、図書館で借りてお家で見てみよう。